

企画室便り (No.1)

(00年度は企画室長に指名された。会社の「総務部長」に相当する。所員に随時情報提供することが肝要と考え定期的に記事を所内版に書いた)

高部英明

センターの動きなど企画室長が毎月所内版で広報することになった。まず、本務から。

- (1) 概算要求していた「レーザー核融合シミュレーター」が認められそうだ。これは、共同研究者の旅費を支給るもので、来年度から実質的な共同研究が可能になる。年明けにも共同研究の所内公募をしたい。審査委員会もいるな。
- (2) 新人秘書の公募をした。19名から申し込みがあった。中には TOEIC 820 点台が2人もいた。雇う側も緊張する。(なお、企業が海外駐在員に期待している点は 600-750 点だそうな。)
- (3) 新人のレ技振(研究支援職員)の面接をした。挨拶など、阪大大学院入試の学生に見せてやりたい元気の良さだ。「親に負担をかけたくないの」など、息子に聞かせてやりたい。
- (4) 科研費の申請書締め切りが10月11日。皆さん、最低2本は書いてください。そして、自分でタイプしてください。秘書の超過勤務を避けて下さい。
- (5) 核融合のオリンピック、IAEAがもうすぐです。レーザー研からは11人が出席します。論文取りまとめをN助手がしています。提出期限厳守。良い季節。イタリアの南部は素晴らしいでしょうね。酔いすぎに注意、ワインと美人(私見ですがナポリには世界一、美人が多い)。
- (6) 表彰制度の見直しをしました。進歩賞、貢献賞。今まで表彰の趣旨や対象者など銘文化されていなかった。今回、この作業をした。12月に表彰します。
- (7) 企画になって事務の方々のやさしさが、改めて身にしみています。

さて、「企画室長とは美女に囲まれたうらやましいポスト」など、とんでもありません。秘書曰く「室長は居ても居なくても同じですね」と。ホッとする気持ちと寂しさが交差する。6人の秘書は昼食後、SGM(Secretary Group Meeting)で仕事の調整をしている。さらに、各種申請書の案内など機転よく判断し、メールで皆さんに情報を流してくれる。自主性を発揮して働いている姿は美しい。

ところが、大変残念なのは任期が3年を限度とすると定めた法律。20年前、ドイツに居た時の所長秘書を思い出す。50歳代の彼女、新任の私に気を配ってくれると同時に、自分で判断して所長代理も務めていた。ある証明書を交付してもらうのに所長の手紙が必要となり、所長室に伺った。あいにく所長は出張中。事情を説明したらその秘書が、文章を書いてくれ「サインもしましょうね」と言って Witkowski 所長のサインとまったく同じサインをサラサラと書いたのには驚いた。秘書は立案・企画・判断も担当してしかるべき、と考えている。が、現状の制度では限界がある。独立行政法人(平成16年)になればキャリアとして続けたい人に道が開かれることを願っている。

企画室便り (No. 2)

高部英明

すっかり秋らしくなってきました。三千院に紅葉をめで行きたいとは思いつつ、スケジュール表を睨んでいる、今日この頃です。さて、企画からのお知らせです。

(1) ポスドク・研究者の流動性について

博士課程3年の方には学位公聴会など忙しい毎日。その後の進路もしっかり考えて下さい。5月に提出した学振の特別研究員の申請用紙に書いているように、学位を取ったら研究機関・指導教官(研究協力者)を替えることが望ましい。レーザー研で得たものが宮本武蔵のように他流試合で通用するか、負ければ死あるのみ。ポスドクのポストも増えています。理研などは70名公募していますが、来年4月採用者の公募締め切りが今年の5月でした。博士課程後期に進学した段階で、学位を取ったら何処の誰と研究するか、考える心がけが必要です。ちなみに、レーザー研もPD公募にしました。12月号の各学会誌に出ます。締め切りは2月17日、私の誕生日です。

(2) 科学研究費の申請

センター長が「最低2本は書くように」と、強く言われていた科研の申請。研究者の皆さん、成果はいかに? 書きました。私は三本。某教授曰く「打率が肝心」。そこで、「研究の活発性の判定は申請が必要条件、採択が十分条件で決まる」

(3) 日米協力

従来の日米協力のレーザー核融合関係の枠の拡大を三間教授を中心に進めています。近々、三間先生より教官に状況説明と所内公募の案内が来ると思います。積極的に申請して下さい。ただし、米国側に恋人が必要です。お忘れなく。

(4) 佐藤君、工学研究科助手に就任

企画係で議事録などを担当してくれていたPDの佐藤君が工学研究科電磁の飯田研究室の助手に10月16日付けで採用されました。おめでとうございます。企画の総務は当分の間、高部と椿本の二人で担当します。

(5) センター内規の見直し

センターには、例えば、「企画室に関する内規」など、たくさんの内規があります。知ってましたか? 現在、事務の岡安さんが現実に叶う文章に修正中です。出来上がったら、一度、所内版にでも載せる必要ありですね。

(6) 年末の行事

12月26日(火)年末大発表会、忘年会。各グループは発表の心の準備を、泰山会係は忘年会の会場を早く押さえて下さい。

12月27日(水)大掃除。忘年会の2次会、3次会。カラオケで徹夜などすることなく、翌日の掃除には全員参加して下さい。

(7) 購入物品の研究会議、新ルール

毎週研究者会議の冒頭に購入物品を議論する事に決まりました。また、会議での承認が必要な額は一品、一式、いずれも50万円以上と改めました。50万円以下の購入物品についてはグループリーダーがしっかり判断して下さい。

企画室便り (No. 3)

高部英明

外国と国内を飛び回っている間に、季節は半袖から長袖に移っていました。皆さん、風邪などひかず、お元気ですか。今回も箇条書きで企画からのお知らせです。

(1) ノーベル賞から仁科賞、大阪科学賞など、世の中は功績のあった人に賞を与え、皆で共に喜ぶシステムになっています。ノーベル化学賞を東工大出身の白川さんが獲り、京大、東大について東工大もノーベル賞学者を出しました。阪大が出すのはいつか、大変気になります。

皆さんも表彰されるに値する活動をされていると思います。しかし、私のつたない経験から言えることは、「自分で思っているほどに、人は貴方のことを評価していない」という現実です。私も何度も痛い目に遭いました。それが今日の私を作り上げている面もあります。

そこで、センター長の言。「皆さん、賞を獲ってください。でないと昇給ありませんよ。これから、そんな時代になりますよ」。本来、賞(Prize)この語源は「ごほうび」です。賞を目指して研究するなど、あさましい限りです。しかし、やるべきことをやった人は快く「ごほうび」を頂ければよい。皆さん、頑張ってください。

私事で申し訳ございませんが、この10月、ケベックで開催された APS (米国物理学会) で、"Fellow" の称号を授与されました。正直に喜んでます。何より嬉しいのは Fellow に推薦してくれた米国、国内の友人達がいたこと。彼らは私にとって宝です。

(2) 年末発表会、忘年会の話題が飛び交う季節となりました。早いもので、もう一年終わってしまった。一年経って、私は老獺(ろうかい)になったのか、仏(ほとけ)に近づいたのか? 年末発表会では、是非、皆さん、この一年の胸の内を大声で語ってください。今年は変化をつけて宮永先生が「秘書にもレーザーをじっくり見せてやろう」と、25日に所内見学会を企画しています。対象は所員全員です。この機会にクリーンスーツを着て激光 XII 号をじっくり見てください。

(3) 核融合研究は激動期を迎えています。来年の1月6日には文部省と科学技術庁が統合し、「文部科学省」が生まれます。ITER の日本誘致と、それに伴う5千億円とも言われる経費はもはや対岸の話ではなく、私達の省の大問題なのです。加えて、原研の主プロジェクトは KEK (高エネルギー研究機構) との中性子科学に移行し、磁場核融合装置 JT-60 及びその改修計画も風前の灯の感があります。本当に核融合が tax payer (国民) から支持されているのか? レーザー研から飛び出して町の人声、他分野の人声をしっかり聞こうではありませんか。

2月には第2回の参与会を開催します。センターの将来像などについて有益なご意見を頂きます。それまでに「貴方にとっての10年先の研究は何か?」じっくり考えてみてください。

企画室便り (No.4)

高部英明

今、フランクフルト。午後3:15(日本より8時間遅い)。ミュンヘンへのフライト待ちです。今夜は21年前に住んでいたフィッシャー家で晚餐、宿泊です。当時11歳だったPeterが昨夏結婚。新婦のAntoniaも来てくれます。時の経つのは本当に速い。

さて、企画室からの便り。

(1) 昨年、第一回を行った参与会を2/19(月)開催します。立花隆など各界の著名人にセンターの将来の方向等について貴重なコメントを頂きます。当日は、助手以上の方は必ず出席して下さい。又、博士課程の方も希望者は参加してください。当日の準備等を皆様に依頼します。ご協力宜しく。

(2) 毎年3月に行っていたセンターのシンポジウムは6月ごろに変更になりました。年度末の慌ただししい時を避けて、じっくり議論するためです。

(3) 卒論、修論、ドク論を控えた皆さん、忙しい日々と思います。頑張ってください。これもあとになると良き青春の思い出です。3月12日には送別パーティー(追出しコンパ)を行います。追い出される方々の多数の参加を期待しています。

(4) 21世紀初頭の1月6日、省庁統合が行われました。これはPolitical experiment(政治上の実験)です。結果がどう出るか、だれも解を知りません。我々が微力ながらその解を作っていくのだ、という当事者意識が大切です。時を同じくして、センターでは研究戦略会議が行われています。センターの研究にたいする志高い見識を結果に具現化したいものです。

(5) 正月早々、13,14の土、日に名古屋で核融合プラズマ研究者100人以上を集めてITER計画に対する大学人の当事者意識高揚、及び、文部科学省における核融合の未来像について討論会がありました。呼びかけ母体の核融合ネットワーク幹事団がまとめた報告書が、近々配布されます(国内の約400人のプラズマ・核融合研究者に)。皆さんも「核融合」と名の付くセンターの一員として目を通して下さい。

(6) 大学の独立行政法人化(H16年度から)に向けて、文部科学省の「大学評価機構」から自己評価のマニュアルが各国立大学につけられています。今年度は理・医・共通教育だけですが、大変厳しい自己評価(大学内での相対評価)を求めています。貴方の研究に卓越している、優れている、普通、要努力のどの評価が下されるか。もうすぐですよ。世界の研究レベルと比べて、自己の相対評価に備えてください。

(追伸)ペーターの新居でお祝いを渡し、ワインを飲みながらの話の後、車で2分しか離れていないフィッシャー家に着きました。なつかしい大理石のフロアー、食卓テーブル。11時ごろまで話した後、元ペーターの部屋で熟睡しました。おかげで時差ぼけなし。翌日、会議会場のHirscheggという国境を越えてオーストリアに入ってすぐの町に着きました。帰国後に旅行記を投稿します。

企画室便り(5)

高部英明

先週の水、木、金と3日間、茨城大学の理学部物理学専攻で集中講義をしてきました。参与会の準備など、忙しい時間の合間をぬって(結局、土、日、返上で)15時間の講義の準備をしました。第1章から12章までのアブストラクト構想、作成(構想は共通一次の試験監督中にやった)。これだけでは時間が持たない。そこで、重要な図など、各章20枚程度、図番号も打って配布しました。式は黒板に書こうと思いましたが、結局、式も配布プリント用意すべきでした。集中講義は初めてでした。大変良い勉強になりました。それと、準備のため数式のフォローなど、机に座り、勉強し、考えている時の充実感。「これがやりたくて、大学に残ったんだ」と、最近の「すさんだ」生活を嘆かわしく思った次第。

さて、前置きが長くなった。今月の企画便り

(1) 参与会開催される： 2月19日(月)第2回の参与会が開催されました。準備などご協力いただいた皆さん、有り難うございました。センター側の発表に、あまり鋭い質問もなく、「今年は不発か?」と思っていたところが、最後の「全体討論」で、大変活発な意見交換があった。全体として、「レーザー研は基礎科学や応用で、輝かしい未来の展開を拓きうるのだから、核融合に拘泥せず、レーザー科学という大きな課題のロード・マップを描き、その中に核融合も含めた、魅力ある展開を図りなさい」という、劇的な結論になった(昨年、立花隆も同じ事を言っていた)。参与会の結論を重く受け止め、戦略検討会の議論が白熱することを期待したい。

(2) 役割分担の交代： 年度末になってきた。例年なら企画の新旧合同で企画会議を行っている時期である。今年は、遅れている。来週には、合同会議で新年度の役割分担の案を提示したい。当然、皆さんに案を示しますので、十分ご理解の上、ご了承下さいますように。

(3) PD 非常勤研究員公募： 今年から学会誌などで、公募した。外部からの申し込みは2件と少なく、余りレーザー研は魅力的ではないようです。教官の皆さんは学会などで、他の分野にも目を見張り「優秀な若者」を獲得するよう、常日頃、心がけて下さい。優秀な若者が希望しない分野など、いくらお金があっても潰れますよ。

(4) 来週の火曜日には「レーザー研専門委員会」が開催されます。レーザーと、プラズマのそれぞれの専門家22名が全国から来て下さいます。中身の濃い議論が出来ますよう、発表者だけでなく、参加する教官が質疑などに実質的に参加して、実り大きい会にして下さい。また、会場設定など、皆さんに手伝っていただきます。宜しく。

追い出しコンパは12日です。多数参加して下さい。また、学会も近づきました。節目の前の「バカ力」。その積み重ねが将来の貴方を作ります。時を大切に。